

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

① いづれの御時にか、女御、更衣あまたさぶらひたまひけるなかに、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。

はじめより我はと思ひ上がりたまへる御方がた、アめさましきものにおとしめ嫉みたまふ。② 同じほど、それより下臈の更衣たちは、ましてやすからず。朝夕の宮仕へにつけても、人の心のみ動かし、恨みを負ふ積もりによりありけむ、いと篤しくなりゆき、もの心細げに里がちなるを、

③ いよいよあかずあはれるものに思ほして、④ 人のそしりをもえ憚らせたまはず、世のためしにもなりぬべき御もてなしなり。

上達部、上人なども、あいなく目を側めつつ、「いとまばゆき人の御おぼえなり。唐土にも、かかる事の起こりにこそ、世も乱れ、悪しかりけれ」と、やうやう天の下にもイあぢきなう、人のもてなやみぐさになりて、楊貴妃の例も引き出でつべくなりゆくに、⑤ いとはしたなきこと多かれど、かたじけなき御心ばへのたぐひなきを頼みにてまじらひたまふ。

父の大納言は亡くなりて、母北の方なむいにしへの人のよしあるにて、親うち具し、さしあたりて世のおぼえはなやかなる御方がたにもいたう劣らず、なにごとの儀式をももてなしたまひけれど、とりたててはかばかしき後見しなければ、事ある時は、⑥ なほ拠り所なく心細げなり。

先の世にもウ御契りや深かりけむ、世になく清らなる玉の男御子さへ生まれたまひぬ。⑦ いつしかと心もとながらせたまひて、急ぎ参らせて御覧するに、めづらかなる稚児の御容貌なり。

一の皇子は、右大臣の女御の御腹にて、寄せ重く、疑ひなき儲の君と、世にもてかしづききこゆれど、⑧ この御にほひには並びたまふべくもあらざりければ、おほかたのやむごとなき御思ひにて、⑨ この君をば、私物に思ほしエかしたまふこと限りなし。

- (1) ~~~~~アエの意味を答えなさい。
 (2) ①④⑤⑦⑧を現代語訳しなさい。

- (3) ②について、何が「同じ」なのか。漢字二字で答えなさい。
 (4) ③について、次の問に答えなさい。

- (a) ③に主語を答えなさい。
 (b) (a)の人物が「あはれるものに思ほし」た理由を説明しなさい。

- (5) ⑥について、次の問に答えなさい。
 (a) ⑥の主語を答えなさい。
 (b) (a)の人物が「心細げ」な理由を説明しなさい。

- (6) ⑨の言いかえを、本文中から十五字以内で抜き出しなさい。
 (4) 次の各文について、【古文】の内容に合致するものには○、合致しないものには×と答えなさい。

ア とりわけ帝の寵愛を受けていた桐壺の更衣は、高貴な家柄の出身だった。

イ 帝の寵愛を得られると自負していた者たちは、桐壺の更衣を快く思っていなかったため、彼女を里帰りさせた。

ウ 桐壺の更衣は病弱になり実家に帰っていることが多かったが、そのような姿を帝はますますいとおしく感じた。

エ 上達部や上人は、楊貴妃の例を引き合いに出して、帝と桐壺の更衣との関係を賞賛した。

オ 桐壺の更衣は、父が亡くなった後、古風で教養のある母に大切に育てられてきた。

カ 帝の子どもには光源氏の他に一の皇子もいたが、帝が心を込めて養育したのは光源氏の方だった。

キ 一の皇子の美しさは光源氏に劣るため、帝は一の皇子を大切にすることはなかった。

- (1) ア 心外な イ 苦々しい
ウ 前世からのご因縁 エ 大切にお世話をしなさる
- (2) ① それほど高貴な身分ではないが、きわだって帝のご寵愛を受けていらつしやる女性がいた
④ 周りの人たちの非難にも遠慮することがおできにならず
⑤ とてもきまりが悪いことが多いけれども、もつたいないほどの(帝の)ご愛情が比べるものがないのを頼りにして宮仕えしなさる
⑦ (帝は)早く(この皇子が見たい)と待ち遠しくお思いになって、急いで(宮中に)参上させてご覧になると
⑧ この子ども(≡光源氏)のお美しさには匹敵なさるはずもなかったのです
- (3) 身分
- (4) (a) 帝
(b) 桐壺の更衣が病弱になり、心細そうで実家に帰っていきることが多かったから。
- (5) (a) 桐壺の更衣
(b) 特別にしつかりした後ろだてがないから。
- (6) 世になく清らなる玉の男御子
- (4) カ ○ キ ×
ア × イ × ウ ○ エ × オ ○